

# シリーズ8 地域の目



あまわり浪漫の会会長  
**長谷川 清博**  
(はせがわ・せいひろ)

衆の前で堂々と表現する子供たちの姿をまぶしく、そして頬もしく感じた一日だったと思います。この取り組みで体験した感動を自分たちだけでなく、後輩た

わり浪漫の会会長  
川 清博  
(かわ・せいひろ)

えだ本番の日は、満員の観客の前で一生懸命に演技する子供たちの姿に、客席からは惜しみない拍手が寄せられ、会場は感動の渦に包まれました。これまで携わってきた関係者の誰もが、大観衆の前で堂々と表現する子供たちの姿をまぶしく、そして頼もしく感じた一日だったと思います。

この取り組みで体験した感動を自分たちだけでなく、後輩た

には、「阿麻和利按司」の居城で、あつた勝連城跡での自主公演を成功させたのです。公演活動を重ねるにつれ、この取り組みが確実に地域に浸透し、さらには、県内外にも広がりを見せていく。

この舞台は、中学1年生から高校3年生までの6年間参加を繰り返しています。日ごろ、稽古する仲間と共に演じる喜びを舞

活動を展開してきたところです。これまでの主な活動として、03年には、公的な補助金や助成金を一切受けない公演を関東5カ所で行いました。また05年には、子供の舞台としては初の「国立劇場おきなわ」での公演。さらに07年

ちにも体験させたいと再演を望む子供たちからの真剣な願いに、大人たちが揺り動かされました。出演者の父母で、舞台をサポートする「父母の会」を結成し、教育委員会と連携を取りながら舞台の継続に尽力しました。01年には、きむたかホールの竣工に伴い、舞台をサポートする「父母の会」から、ホール運営を支援する団体として「あまわり浪漫の会」

台上で表現する子供たちのひたむきさに、観劇された方々から激励の言葉を掛けてもらうことで、地域を誇りに思う気持ちと仲間や舞台制作に携わる周囲の大人たちへの感謝の気持ちが育まれていきます。

今年の100回公演での光景が忘れられません。卒業生と現役メンバーとの感謝のバトンリレーが行われました。現役メンバー

とへの感謝をお互い称えながら抱き合う姿があつたのです。そこには、先輩から後輩へと確實に受け継がれ守られている熱い想い、「肝高い志」が感じられました。この舞台はこれからも勝連を拠点に、舞台を守り育てていく人材と稽古場を確保しつつ、子供と大人が協働して創り出す感動体験舞台を発信し続けていきたいと思います。

「琉球の船を世界中に走らせたい！」という阿麻和利按司の夢の実現に向け。

※按司：琉球王国の称号及び位階の一つ